## 2014年度 第2四半期 決算説明

2014年11月28日 鬼怒川ゴム工業株式会社



## 2014年度 第2四半期 決算のポイント

#### ■ 前年同期比で増収減益

■ 売上高

連結売上高は昨年と同額(うち、為替変動影響+2%)地域別は米州で増収、日本・アジアでは減収

米州 :日系カーメーカーからの受注車種増加

アジア:主要得意先の自動車生産の増加はあったものの

タイにおける自動車生産が減少

日本 :国内・海外向け自動車生産台数の減少

■ 利益

立上げロスの削減や生産性向上により収益が改善したものの 操業度の低下及び製品構成の変化により減益



## 2014年度 第2四半期 決算概要

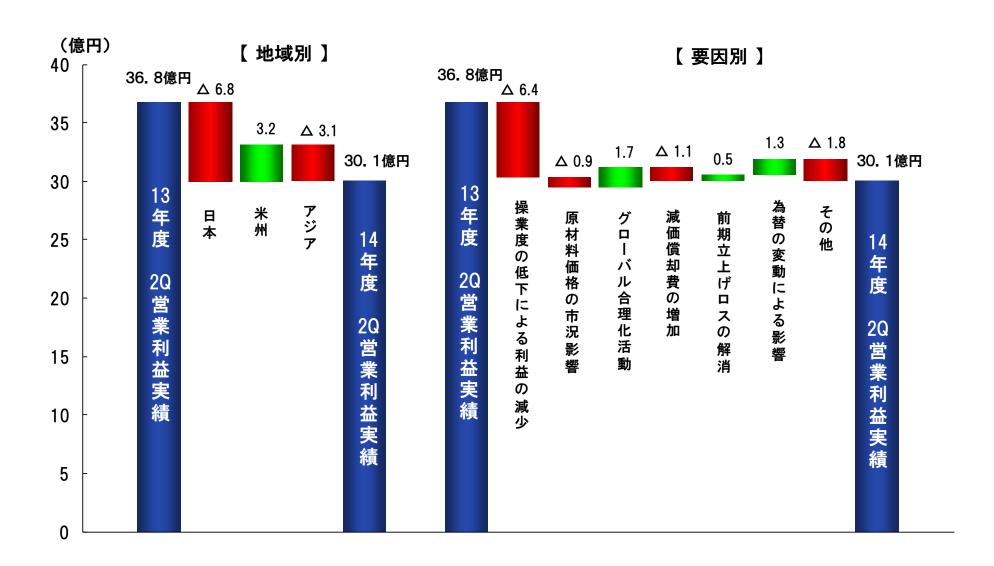
(単位:億円/未満四捨五入)

	<u>\早</u> 业·隐						
	2013年度	2014年度					
	第2四半期	第2四半期	(増減率)				
売上高	365	365	( 0%)				
営業利益	37	30	( -18.2%)				
営業利益率	10.1%	8.2%					
経常利益	40	32	( -21.9%)				
経常利益率	11.1%	8.6%					
当期純利益	23	19	( -16.7%)				
総資産	610	648	( +6.2%)				
自己資本	305	309	( +1.4%)				
自己資本比率	50.0%	47.7%					
借入金残高	85	117					
DEレシオ	0.3倍	0.4倍					

(注) 前期の貸借対照表科目は前年3月末、( )内は前期との増減比率



#### 営業利益 增減要因(地域別・要因別)





#### 所在地別の状況

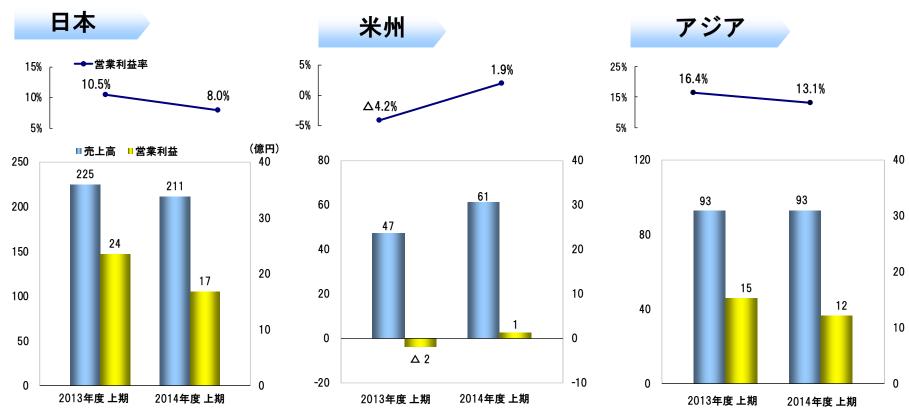
本:主要得意先の自動車生産台数の減少及び操業度の低下と製品構成の変化により

減収減益となった

州:主要得意先の自動車生産台数の増加及びメキシコ拠点の操業度の上昇、 生産性の向上や材料歩留まりの改善などにより増収増益となった

アジア:タイでの主要取引先の自動車生産台数の減少及び、新拠点立上げ費用による

コスト増により減収減益となった





#### 四半期毎 売上・営業利益推移

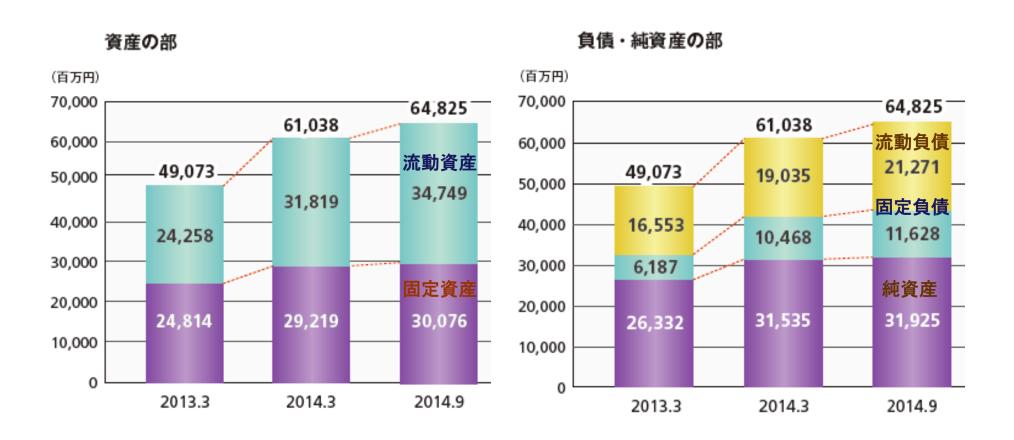
■ 上期は前年同期比で増収減益となるものの、下期のグローバル合理 化効果及び拡販による操業度上昇により通期目標を達成する見込み





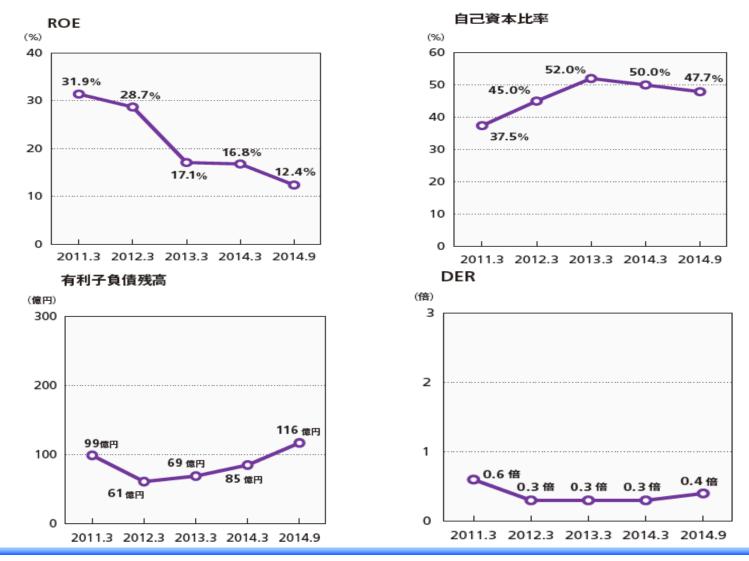
#### 貸借対照表の推移

■ 新拠点を中心に設備投資及び運転資金の増加により総資産増加 (+37億円 6%増加 対2014年3月)



#### 主要経営資料の推移

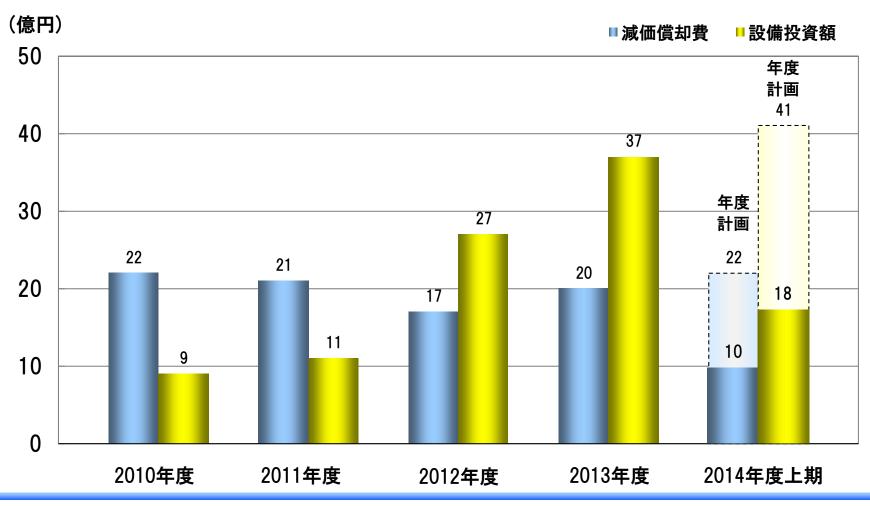
#### ■ 将来の拡大に向けた新規投資等により一時的に借入金が増加





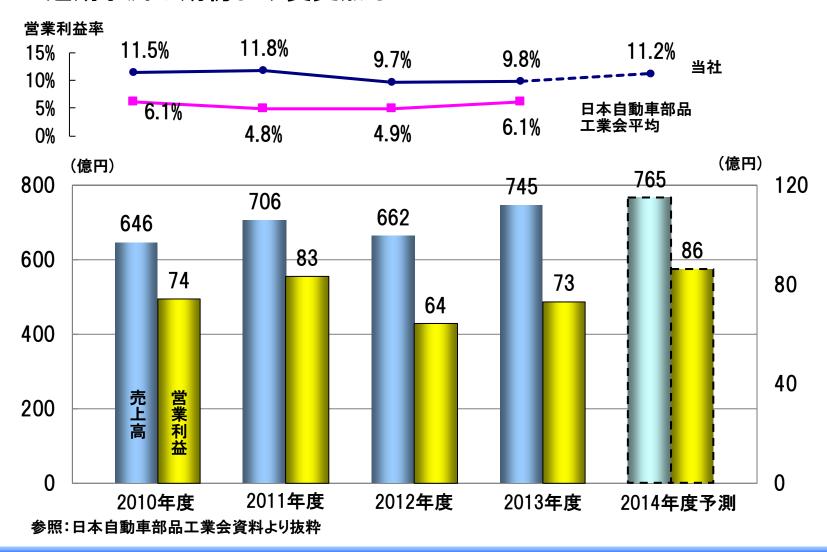
## 減価償却費・設備投資推移

■ 設備の現地調達化・設備稼働率の向上等により設備投資額をミニマム化



## 業績通期推移(2010年度~2014年見込)

#### ■ 通期予測は期初より変更無し



## 2014年度 業績比較(対前年度)

(単位:億円/未満四捨五入)

	2013年度	2014年度	
	通期 実績	通期 予想	(増減率)
売上高	745	765	( +2.6%)
営業利益	73	86	( +17.9%)
営業利益率	9.8%	11.2%	
経常利益	81	86	( +6.4%)
経常利益率	10.8%	11.2%	
当期純利益	47	50	( +6.5%)

1. 売上高;米州・アジア地域の拡販、主要得意先の生産

台数増加等により増収見込み

2. 利益 ;操業度の上昇、グローバル合理化活動の進展、 新規拠点の立上げロス改善により増益見込み

#### 中期経営計画の取組み状況

#### Kinugawa Challenge 2015

スローガン: 【スピード・変革・チャレンジ】

2015年度目標(売上高・営業利益(率))

売 上 高;1,000億円以上

営業利益額; 120億円以上

営業利益率; 12%以上

#### ■ 売上高の達成状況

・外部環境の変化を受けて1年~2年遅れで1,000億円達成を目指す

#### ■ 利益の達成状況

・日本 :操業度を微減にとどめて構造改革により利益を確保

・米州 :拠点運営の安定化による財務体質の改善により収益回復

・アジア:操業度の上昇により利益拡大



#### 中期経営計画の取組み状況

2017 真のグローバル企業へ

2015

[Kinugawa Challenge 2015]

スピード・変革・チャレンジ

新工場が続々と稼動開始 (メキシコ.ブラジル.ロシア.中国鄭州)

2014

拠点運営の質の向上、

世界各国へ供給可能な26拠点体制へ 品質を中心に更なるレベルアップ

#### 新工場

■ キヌガワメキシコ



売上高:約63億円(2017年計画) 新工場開始 14年5月~ ■ キヌガワブラジル



売上高:約16億円(2017年計画) 量産開始 14年7月~ ■キヌガワロシア



売上高:約10億円(2017年計画) 量産開始 14年7月~ ■ 鬼怒川鄭州



売上高:約8億円(2017年計画) 量産開始 14年1月~



#### 配当

① 期末配当は以下を予定しています 2015年3月期予想;第2四半期末5円、期末5円、合計10円

#### 2 株主還元指標

DOE;株主資本配当率(\*)を2~3%とし、 今後も会社業績に応じた適切な株主還元を継続致します

(\*)=配当総額÷株主資本

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度 予測
当期純利益(百万円)	2,977	4,467	5,300	3,975	4,500	5,000
1株当たり当期純利益(円)	44.35	66.56	79.16	59.13	66.94	74.38
1株当たり配当金(円)	4.00	5.00	6.00	8.00	8.00	10.00
DOE;株主資本配当率	2.5	2.3	2.0	2.3	2.2	-



## 75周年

# 鬼怒川ゴムは本年10月1日に創業75周年を迎えました

今後も変わらぬご支援・ご指導を お願い致します



本書には、当社および/または当社グループに関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは当社が現在入手している情報に基づく、本書作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提(仮定)を使用しております。これらの記述または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。実際の業績は、今後様々な要因により業績予想と異なる結果となる可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の有価証券報告書、短信等開示書類、プレスリリース等をご参照ください。

本書は、情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。

本書に記載されている当社ないしは当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものです。情報の正確性・適切性等について、当社は何らの検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。

#### ご照会等は、下記までお願いいたします。

■鬼怒川ゴム工業株式会社 経営企画室

電話:043-259-3111 (代表)

E-mail: kinugawa-ir@kinugawa-rubber.co.jp

■ホームページのご案内

URL: http://www.kinugawa-rubber.co.jp/index.html

《IR情報》http://www.kinugawa-rubber.co.jp/investor/



